

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言	
				A 満足	B やや 満足	C やや 不 満足	D 不 満足			
[1] 学力向上を図る。										
1	質の高い授業を 目指し授業力向上 に努める。 ア 授業評価 イ 授業公開の推 進 ウ 職員相互の授 業研究の取り組み	教務部	ア 生徒による授業評価を実施し、教員の授業力向上に活かす。 イ 授業公開週間を実施する。 ウ 授業公開週間において、ワークショップ型授業研究会を実施する。	・生徒による授業評価の実施については、継続検討中。 ・2学期の授業公開週間における参観者は11人であった。他の行事を兼ねて参観できないような仕掛けが必要か。 ・アンケート回収38部中89%で今後自分の授業に参考にしていきたいという回答を得	49%	41%	10%	0%	・授業のありかたについては、授業研究会を継続することで実施する。 ・授業公開週間は春、秋の時期に実施する。	
		1学年	ア 学期ごとにLHRで生徒による授業評価・アンケートを実施し、授業の雰囲気改善につとめる。 イ 学年の授業巡回指導で授業に集中できる雰囲気づくりをサポートする。 ウ 学年会や放課後の各クラスの授業の情報交換を通し、授業がより良いものとなるよう工夫する。	12月のアンケート調査では、真面目に授業を受講できていると答えた生徒が75%であった。	37%	49%	12%	2%	真面目に授業を受けているが、模試の成績向上にはつながっていない。今後、検証が必要。	
2	生徒の授業に対する高い取り組み意識と自学自習を確立する。	生徒指導部	年間を通して、毎月1回、1週間の期間で授業規律週間を実施し、授業規律徹底の指導に全職員で取り組む。	本年度7回の授業規律週間で指導対象者の延べ人数は30名。各回平均4.28人であった。「授業規律」の捉え方と目標設定を見直し、効果的な指導方法を検討する。	29%	43%	24%	4%	「授業規律」の定義・捉え方、「居眠り」「私語」など指導項目について再検討し、それらを日ごろの授業から徹底できる指導法・体制・研修会の工夫も並行しつつ、目標設定をする。	教職員の授業力養成のために、さらに研鑽を積み、生徒の学習意欲と理解度の向上を目指した取組が必要である。 基礎学力の定着及び学習習慣の確立を目指した学校としての工夫と努力は評価できる。 自己評価の悪い項目については、真摯に受け止め、課題を明らかにして、改善を図る必要がある。
		1学年	8時30分～40分の自習時間や学校設定科目「ブラッシュアップI」の時間の活用や宿題・課題を通して、自学自習の習慣と家庭学習の習慣を確立する。	授業規律の指導対象者0名。12月の調査では、1日の家庭学習時間は平均25分。1時間以上学習している生徒は24%であった。	20%	39%	37%	4%	家庭での学習時間向上には、各教科の宿題や週末課題の実施と提出を組織的に確立していくことが必要である。	
		2学年	授業規律週間以外にも学年独自に授業巡回を実施。課題提出を通して自学自習の習慣をつける。	学年独自の授業巡回などを実施した。	15%	43%	40%	2%	授業巡回はできたが、生徒の学習意欲向上に結びつけるのが課題。	
		3学年	授業研究を学期に1回は実施。授業巡回は、規律週間以外にも学年で巡回。進路実現に授業で力をつける具体的な取り組み。	授業規律の指導対象者5名。週間目標、時間管理は手帳を有効活用。家庭学習は個人差あり。	24%	52%	22%	2%	授業規律の指導対象者5名。週間目標、時間管理は手帳を有効活用。家庭学習は個人差あり。	
3	積み重ね学習により、基礎基本の確実な定着をはかる。	学力向上委員会	学校設定科目「ブラッシュアップI」において、数学・英語の基礎的内容の定着を図る。	2学期のBU英語では22人が1級合格。英語は特に苦手な生徒が多く、目標を達成できなかった。3学期も継続して、英語に取り組んでいる。6級合格は長欠者を除き、全員達成した。	35%	48%	17%	0%	・ブラッシュアップIは数学科、英語科、第1学年担当で、学習指導内容の位置づけを明確化していきたい。 ・ブラッシュアップIIは第2学年担当で、授業担当で扱う教材の精選を考えたい。	
		1学年	学校設定科目「ブラッシュアップI」において、数学・英語の基礎的内容の定着を図る。また、英語・国語の小テストを毎週実施し基礎基本の定着をはかる。	2学期のBU英語では22人が1級合格。6級合格は長欠者を除き、全員達成した。3学期も継続して、英語に取り組んでいる。	34%	53%	13%	0%	BUにより、成績の上位と下位の学力の差が明確となった。次年度にむけて、下位層の生徒を如何にサポートするか、具体的な方法を考えていきたい。	
		2学年	進路希望別の補習を実施。特に人文S、理系には大学受験に対応できる内容とする。	大学受験を視野に入れた補習を行った。	26%	60%	13%	2%	入試に対応できる実力をつける。	
		3学年	進路別(進学、就職)の補習を実施。考査前の希望補習及び指名補習の実施。	指名補習の参加100%、補習の参加はのべ100名以上(1週間単位)。	54%	37%	9%	0%	補習計画の充実。指名補習の参加100%。休業中の補習参加者の増加。	

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言	
				A 満足	B やや 満	C やや 不	D 不 満足			
4	高大連携をはじめとする異校種連携や、学校外の研修など発展的な学習の取り組みを推進する。	1学年	特色類型の高大連携講座に他のクラスの希望者も積極的に参加させる。また、甲南大等での学外の希望者学習会や補習を充実させる。	10月から進学希望者を対象に補習を実施。参加希望者は60名以上であった。現在も継続して実施している。	48%	50%	2%	0%	次年度の実施予定。志望校別や習熟度別の選択補習も検討中。	さらに異校種連携を推進し、発展的な学習の取り組みを期待する。
		2学年	連携校を中心に、夏休みにキャンパスを訪問し、学習への意欲を高める。	大学進学者数を増やすため、大学の情報を積極的に生徒に提供し、進路意識を向上させた。	38%	49%	13%	0%	高大連携講座による進路意識だけでなく、学力向上にもつなげたい。	
[2] キャリアデザインの充実と希望進路の実現を図る。										
5	3年間を見通した進路指導計画に基づき、各学年における進路指導の充実を図る。	進路指導部	全学年に進路目標および計画を立ててもらい、その実施に協力をする。	・計画通り実施できた。毎週行う進路指導部会において(計24回実施1月19日現在)、各学年の書類報告により、計画の細やかな進捗確認と全員の共有がなされ、効果的であった。 ・東灘版キャリア教育プランを念頭に、進路ガイダンス1つにおいても、丁寧な事前事後指導と事後アンケートの実施による生徒の満足度等の数値化とデータの蓄積を行うことが出来た。	50%	44%	6%	0%	・本校におけるキャリア教育や進路指導計画を見直し、さらなるステップアップを目指す。 ・各学年が計画立案実施するにあたり、その指導に期する効果と成果を全職員の間で共通理解を図り、さらなる緊密な連絡会を行う。	各学年が情報及び手法の引き継ぎ・共有化を組織的にを行い、高校3年間を見通した指導がさらに計画的、継続的に推し進められることを期待する。
		1学年	ライフプラン作成と併せて高校3年間の目標を立てさせ、面談等を通してその実現を援助する。	現在、2年次の類型選択と並行して実施中。	28%	57%	15%	0%	2年次には卒業後の展望を具体化させ、ここにライフプランを作成させる予定。	
		2学年	進路希望調査をもとに夏季休業中に、原則3日間の体験学習を実施。	夏季体験学習として完全実施できた。	58%	33%	8%	0%	成果発表の機会の充実。	
		3学年	計画的な補習、模試の受験、オープンキャンパスへの積極的な参加及び進路ガイダンス、進路HRの充実	進路指導部のリードの効果で計画的に実施。	40%	52%	8%	0%	計画立案から90%の実施。	
6	進路広報紙や面談などを通じて、進路情報の積極的提供を行う。	進路指導部	・進路広報紙を必要に応じて作成し、生徒に配布する。 ・各学年に応じた進路情報を提供する。	・進路のしおりを例年と同様の内容のみならず、面接に必要な内容等の改定を行い、進路指導に役立つよう努めた。 ・広報紙ではないが、保護者会時に進学に必要な情報をプリントにまとめて配布。面談などでの活用にも有用であった。 ・また、夏季面談時に全員に配布する情報誌と併せて、希望者が自由に持ち帰ることのできる資料ブースを設置。 ・生徒向けマネープランは有用であった。	47%	49%	4%	0%	・各学年のニーズに応じた資料作成や情報冊子の提供を行う。 ・第3学年においては、各書類の様式についての講習を生徒・教員共に行い、共通理解を図る。	
		1学年	学年通信「FOR ONE」やLHR・面談等を通して、積極的に生徒に進路情報の発信を行う。	月1回以上、学年通信を発行。これまでに進路に関する担任との面談を随時実施し、希望者には主任面談を行っている。10月、12月に進路ガイダンスを実施し好評であった。3月にも計画している。	48%	50%	2%	0%	学年通信は12号発行。次年度も継続する。主任面談は、次年度も実施する。	
		2学年	生徒面談、三者面談、学年保護者会を実施。	生徒面談、三者面談、学年保護者会を実施。	31%	58%	11%	0%	さらに、情報発信をすべき。	
		3学年	学年通信「39ありがとうの心」の発行、保護者会、三者面談、個別面談を実施。	年間16号を配布し、最後に卒業式号を発行予定。電話連絡100%実施。	45%	51%	4%	0%	学年通信を年間15号以上発行。電話連絡100%。保護者会の参加人数増加。三者面談の内容の発展。	

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言
				A 満足	B やや 満	C やや 不	D 不 満足		
7 実力試験(模試)の実施により、学力の到達度を測るとともに意識向上を図る。	進路指導部	実力試験の実施を計画し、結果の提供およびデータの蓄積をおこなう。	・模擬試験の結果を前期・後期で計2回、職員会議で報告、共通理解を図った。ただ、細やかな比較までには至らなかった。 ・各学年に対しては、それぞれの傾向を踏まえ、必要な進路情報を案内した。 ・第3学年はBenesse担当者を招き、模試のデータに基づいた入試検討会等を行った。	34%	45%	21%	0%	・実力試験の有用な計画実施を行うとともに、情報の分析結果を教員間で情報共有を行い、学力向上・進路実現に活用する。	模試結果の分析を有効に活用し、生徒の進路意識の高揚につながる「競走意識を持たせる」ため等の様々なしなやかな立案を期待する。 体験学習が進路指導にうまく反映されている点は評価できる。 就職希望者については、生徒個々に応じたいい指導がなされていることは評価できる。 さらに、発展的課題に取り組んで欲しい。
	1学年	年4回の実力試験の実施にあわせて事前・事後の指導をしっかりとおこなうとともにデータの蓄積と分析をおこない活用する。	実力試験ごとに結果分析と学力検討を行った。生徒個々の情報を共有し、学年全体の3年間のビジョンを再確認した。今後、各教科のビジョンを明確にする予定。	40%	47%	13%	0%	ハイレベルの大学進学希望者に対する学年全体のビジョンは確認できている。しかし、東灘高校の実情に合った成績向上の仕組み(戦略および戦術)は、現在模索中。	
	2学年	進路指導部や各教科と連携を図り、模試データを活かした指導を行う。	生徒面談、三者面談、学年保護者会を実施。	28%	53%	19%	0%	模試データを活かす進路指導をする。	
	3学年	進路指導部と連携を図りながら、データ分析及び面談方法を学年で検討。	結果分析及び指定校、公募推薦検討会、一般入試検討会及び面談を実施し、情報の共有と効果的な指導を行った。	41%	46%	9%	4%	模試データの結果分析及び志望校検討会を実施し、情報の共有と効果的な指導で面談を行う。	
8 「総合的な学習の時間」の効果的な実施を図る。	進路指導部	昨年度立案した内容を具現化する。	・3段階評価(A・B・C)のB評価以上が80%になるよう指導している。年間計画を組み、段階的な指導を行っていることで、生徒の意識も変わってきているように感じる。 ・年度末に向けて、アンケート調査の実施および、その内容の検討することを計画。	31%	60%	9%	0%	・今年度の内容を総括し検証し、次年度においても生徒に有用な内容を計画実施する。	さらに、発展的課題に取り組んで欲しい。
	2学年	進路ガイダンス、体験学習の事前事後指導を実施。	夏季体験学習B以上の評価が80%以上達成できた。	44%	54%	2%	0%	事後指導のアンケートの有効活用の策を考える。	
	3学年	進路に対する実力の向上のため、英語、教養、情報、レポートの分野で効果的な実施の工夫。	3段階評価(A・B・C)のB評価以上が87%を達成。	42%	52%	6%	0%	3段階評価(A・B・C)のB評価以上が80%。	
9 キャリア教育を推進し、望ましい勤労観や職業観を育成する。	進路指導部	・進路指導におけるキャリア教育の計画を立案し、本校キャリア教育の基礎を形作る。 ・東灘版体験学習の基本形の定着と事前・事後指導の充実を図る。	・キャリア教育の計画内容の90%以上が実施できた。 ・キャリア教育の基礎を形づくられたが、今後さらなる見直しをはかり、計画していく。 ・事前事後指導も各4～5時間実施し、十分にできた。 ・体験学習後のアンケートで85%の生徒が満足していると回答している。	55%	40%	4%	0%	・東灘高校としての3年間を見通した“夢をかたちに”するキャリア教育”の定着を目指すとともに、「特別活動」での段階的・横断的な指導を行う。 ・東灘版体験学習の事前・事後指導の充実発展を目指す。	さらに、発展的課題に取り組んで欲しい。
	1学年	職業人インタビューや職業人と語る会・職業調べなどの進路学習を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。	12月の調査では、進路未決定者が20%であったが、4年制大学進学希望者が36%になり、入学当初よりも増加している。	33%	52%	15%	0%	卒業後のビジョンを明確にしていくことにより、4年制大学進学希望者を50%以上にしたい。	
	2学年	進路指導部と連携し、勤労観、職業観の育成のため、体験学習を実施。	夏季体験学習B以上の評価が80%以上を達成できた。	48%	46%	6%	0%	夏季体験学習は良い意味で定着してきた。	
	3学年	進路指導部と連携を図りながら、進路HRや継続的面談を通して、生徒の適正を見極め、就職に対する意識づけを徹底させる。	就職学校斡旋の内定率100%を達成。	88%	13%	0%	0%	就職学校斡旋の内定率100%。アルバイトの生徒を出さない指導。	

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言
				A 満足	B やや満 足	C やや不 満	D 不満足		
10 進学補習を組織的・計画的に行う。	進路指導部	各学年への進学補習実施を働きかけ、四年生大学・短期大学への進学率の向上、および、関関同立・産近甲龍レベル合格者増加を目指す。	・夏季補習・冬季補習共に3学年で実施。また、通常補習も継続実施。 ・学年ごとの生徒の雰囲気に応じた効果的な声かけの依頼。 ・進学率の向上を目指して指導中。現在、指定推薦者が40名(うち、四大28名、短大11名、医療系専門学校1名)、AO・公募制推薦進路決定者128名(うち、四大61名、短大23名、医療系専門学校12名、その他の専門学校32名)である。四年制大学・短大への進学率49.4%。 ・関関同立・産近甲龍レベル合格者現在5名合格 ・就職学校斡旋希望者100%内定。	40%	48%	10%	2%	・学力向上の観点から、各教科主任や学年主任との連携を行い、進学補習の計画をサポートする。 ・各学年への進学補習実施を働きかけ、四年生大学・短期大学への進学率の向上、および、関関同立・産近甲龍レベル合格者増加を目指す。	進学補習の充実については、喫緊の課題でもあり、生徒個々に応じたいていねいな指導となるよう配慮し、一層の推進を期待する。
	1学年	進学補習や学習会を実施し、自学自習と家庭学習の習慣を身につけさせ、一般入試に通用する学力を養う。	12月実施の進路マップにおいて、Bゾーン以上の生徒が39名。国語は79名、数学は66名、英語は40名であった。	44%	46%	10%	0%	成績上位層(Bゾーン)が徐々に減少しつつある。生徒に対する意識の高揚を図るための具体的な取り組みを考えたい。	
	2学年	長期休業中の補習に加えて、毎日の補習を実施。	人文S、理系は原則全員補習参加とし、9月から進学補習を実施できた。	43%	49%	9%	0%	補習で、さらに学力向上をはかる。	
	3学年	月曜以外に毎日の実施。英語、日本史、古典、数学、化学、現代文、就職補習を実施。	大学、短大の進学率60%を目標。関関同立、産近甲龍5名(1/15現在)。現役で関西学院大学、関西大学の合格を獲得。	48%	38%	10%	4%	大学、短大の進学率60%を目標。関関同立、産近甲龍レベル合格者10名以上。	
[3] 生徒指導の充実									
11 基本的な生活習慣の確立と規範意識の一層の育成に努める。 ア 時間厳守、挨拶の励行、校内美化に取り組む。 イ ルールの遵守とマナーの向上。	総務部	マナーの向上に結び付けるように校内美化や花壇の整備等に力を入れる。	丁寧な日々の水やりなどにより、花壇等をよい状態で長く保つことができた。校内の清掃状況をおおむね良好を保てた。	39%	51%	8%	2%	丁寧な日々の水やりなどにより、花壇等をよい状態で長く保つ。校内の清掃状況を良好に保つ。	規範意識についての日々の取り組みは評価できるが、まだ不十分な部分もある。 より高い到達点を目指して、さらに計画的でねばり強い指導を期待する。 今後も、学校全体での継続的な取組が大切である。
	生徒指導部	・月間遅刻指導や1年生での8:30登校を実施し、学年との連携のもと、時間厳守の意識を高め、遅刻者を減少させる。 ・服装違反指導を実施し、正しい服装の着なしを身に付けさせる。 ・登下校指導やPTA・保護者と連携した「おはよう運動」を実施し、登下校マナーの向上とあいさつの習慣化を図る。 ・全校集会や登下校指導、校内巡回、特別指導プログラムの実施により、規範意識を向上を図り、特別指導を減少させる。	・1月現在、月間遅刻指導対象者のべ人数は、76名。月平均7.6名。 ・1学年については、8:30登校の実施により、教務的な遅刻は減少している。 ・1月現在、服装指導の対象者は計10名。SHRや授業の開始時など指導を徹底する場面を設定していきたい。 ・登下校の苦情に対しては、立ち番・巡回、朝礼でのアナウンス等で即座に対応している。苦情件数を目標設定項目にすることには検討の余地あり。 ・特別指導は1月現在17件。8月、9月、12月、1月が特別指導0件である。	42%	48%	10%	0%	・8:30登校は遅刻減少に効果的といえるため、次年度も引き続き実施する。 ・服装指導については、改めてあるべき服装についての共通認識を形成し、個々の教師が注意・声かけを徹底する体制を再構築する。 ・おはよう運動は、これまでの者の継続とともに、正門付近での生徒参加のおはよう運動も実施したい。 ・全校集会や研修会、生徒指導通信などを対職員・対生徒の指導方策・情報発信として活用する。	
	1学年	カウント制の遅刻指導・服装指導・携帯指導や登・下校指導を徹底し、基本的な生活習慣を確立させ、自発的に正しい服装を身につけさせると共にルールを遵守させる。また、授業や集会を通して、時間厳守や挨拶の励行・TPOに合わせた言葉遣いやマナーの指導を徹底する。日々の清掃指導を徹底し、学習環境の整備に努める。	月間5回以上の遅刻及び携帯指導での保護者来校は9名。月間10日以上欠席者は12名、そのうち転学・退学者は5名であった。特別指導9件。	21%	58%	21%	0%	8:30登校は有効的であった。特別指導を含む指導件数の減少は、現在の指導実践を継続しつつ、その原因を検証していくことが必要である。	

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言	
				A 満足	B やや満	C やや不	D 不満足			
11	基本的な生活習慣の確立と規範意識の一層の育成に努める。 ア 時間厳守、挨拶の励行、校内美化に取り組む。 イ ルールの遵守とマナーの向上。	2学年	欠席生徒には、必ず家庭連絡をして状況の把握と家庭の協力を得て、対応を考える。挨拶の励行。学年団から積極的に生徒に挨拶の声をかける。	欠席生徒への家庭連絡で、状況の把握と対応ができた。月間遅刻指導は年間を通してであった。	26%	43%	30%	2%	家庭への丁寧な対応は、信頼関係をつくるのに役立つ。	
		3学年	欠席、遅刻者数の減少のため、週に2回以上の欠席または遅刻があった生徒は個別面談を実施。教職員の積極的なあいさつ運動。問題行動「0」。	月間5回以上の遅刻での保護者来校2名。週に2回以上の欠席・遅刻で面談指導をする生徒の減少。特別指導5件(2、3学期は無し)。	21%	57%	21%	0%	学校としての欠席・遅刻人数の減少戦略を実施。月間5回以上の遅刻での保護者来校を0名。週に2回以上の欠席・遅刻で面談指導をする生徒が5名以下。問題行動0件。	
12	学習活動との調和を図りながら、生徒の自主的能力の育成・支援に努める。 HR活動、生徒会活動、学校行事、部活動の充実。	総務部	・日々の清掃指導の徹底(掃除監督者の指導の徹底) 毎日の清掃活動に真剣に取り組むように、声かけを行う。	おおむね良好な清掃活動が定着した。階段や廊下の隅に安易にゴミを捨てる生徒への指導が今後の課題。	13%	63%	23%	2%	良好な清掃活動の定着。階段や廊下の隅に安易にゴミを捨てる生徒への指導が今後の課題。	規範意識についての日々の取り組みは評価できる部分もある。 生徒指導部と各学年との連携が課題である。 部活動の充実等、より高い到達点を目指して、さらに計画的でねばり強い指導を期待する。 今後も、学校全体での継続的な取組が大切である。
		生徒指導部	・部活動全入制を実施と行事での部活動の活躍場面設定により、部活動の活性化を図る。 ・生徒会の活動内容の検討と改善を行う。 ・学級経営に関する研修会を実施し、生徒の社会性や自主性の育成、自己実現を図る方法を共有する。	・3年生引退後の1月現在の1・2年生の部活動加入率は58.8%。1年生全入制に加えて、活動継続のための手立て、2・3年生の再加入の機会が必要。 ・研修会・勉強会については2・3月に2回予定している。指導の徹底、初歩的なミスの回避には、不可欠であると考えている。	16%	54%	24%	6%	・部活動全入制を引き続き実施するとともに、活動・活躍の様子や魅力の発信を強化することで、部活動活性化を図り、部活動加入率を上昇させる。また新入生の入部だけでなく、2年生の再入部の機会についても検討する。 ・従来の生徒会行事での役割拡大や、新たな生徒会行事の企画・運営を通して生徒会活動の活性化を図る。 ・学級経営に関する研修会を各学期1回実施し、学級づくり・集団作りの方法を向上・共有する。	
		人権教育委員会	各学年、講演会や『HUMAN RIGHTS』等を活用して人権LHRを実施する。	教科や生徒指導部等とタイアップして、各学期、様々な形で人権教育を実施した。	19%	43%	36%	2%	各学年の人権担当者との連携を密にし、より実効性のある人権教育を目指す。	
		1学年	1学年部活動全入制の充実・改善を図る。ボランティア活動や特別教育活動への積極的な参加を促す。	2学期以降の入部率は68%であったが、冬休みに退部した生徒もいるようだ。入部率80%以上は達成できなかった。	17%	46%	35%	2%	入部率80%以上は理想であるが、生徒に対する啓発の方法を再考し、更に学校全体の組織的な連携が必要である。	
		2学年	中核の学年としての意識と行動をする。HRや学年集会で意識づけをする。	修学旅行を契機として、5分前集合ができつつある。	27%	42%	25%	6%	5分前行動実現を目指す。	
		3学年	最高学年としてのTPOに応じた行動力。	教科や生徒指導部等とタイアップして、各学期、様々な形で人権教育を実施した。	31%	58%	6%	4%	活躍の場を学年通信等で発信。学校行事の生徒満足度85%以上。	
		13	教育相談の充実を図り、生徒の内面理解に努める。	生徒指導部	登下校指導や校内巡回によって生徒の情報・様子を把握し学年と共有することで、気になる生徒への早期対応と内面理解を図る。	・今年度最も効果的な生徒指導部の取り組みが、毎日の立ち番・巡回指導であったと考えている。カインズ前や正門のほか、深江駅やバス停でも立ち番・巡回を実施し、調査期間中の放課後にも実施した。挨拶やゴミ拾いの取り組みも有効であった。 ・毎週水曜日に生徒指導部専部会、木曜日に生徒指導部会を開き、情報や指導法の共有や検討に活用した。	64%	34%	2%	

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言
				A 満足	B やや 満足	C やや 不 満足	D 不 満足		
13 教育相談の充実を図り、生徒の内面理解に努める。	保健部	学年・関係各部と連携して実態に合わせた命・心の教育を展開する。	毎週水曜日の教育カウンセラーによる教育相談を活用してもらい、内容を先生方で共有し、生徒理解に努めた。	45%	51%	4%	0%	毎週水曜日の教育カウンセラーによる教育相談を活用し、有益な情報を先生方と共有できた。次年度も取り組みを更に深めたい。	教師として生徒の心に響く言葉を投げかけることが大切である。生徒理解については、さらに家庭との連携を密にし、継続的な指導していく必要がある。
	1学年	生徒情報を普段から随所でキャッチし、生徒理解に努めるとともに、関係部署と情報を共有し、早期対応を心掛ける。人権教育をLHR年間指導計画の中に位置づけ推進し、人権意識を高める。	進路変更者8名。長期欠席者7名。いじめの認知件数3件。解決済みだが、現在も継続して指導している。	34%	47%	17%	2%	進路変更者の多くは、学業不振によるものであった。今後、低学力の生徒に対する学年全体としての取り組みを検討し、進路変更者の減少につなげたい。	
	2学年	HRで、人権教育、多文化理解を図る。カウンセラーによる教育相談を勧める。	カウンセリング、気づきシートの活用で生徒情報を得ることができた。	36%	49%	15%	0%	カウンセラーの活用で、生徒理解につなげる。	
	3学年	人権HRを活用し、人権教育、多文化理解の充実。	進路変更者4名、長期欠席者0名。	32%	49%	17%	2%	進路変更者、長期欠席者0名。	
14 地域の活動への参加、ボランティア活動を推進する。	生徒指導部	・幼稚園との芋掘り体験活動や、高齢者とのふれあい活動を継続して行う。 ・ボランティア活動の案内・募集を促進し、生徒が参加する機会を増加させる。	・1月現在、ボランティア20件を達成した。参加生徒は50名以上。今後は、ボランティア同好会発信の活動を検討していく。	58%	40%	2%	0%	・年間の参加ボランティア活動件数を30件以上にする。 ・ボランティア同好会や生徒会による企画・発信の地域活動・ボランティア活動を1学期に1件以上実施する。 ・ボランティア参加生徒を全校生徒の3割以上にする。	「人間らしさ」の醸成等、課題は多い。地域との連携については、評価できる。学校としての目標でもあり、さらに組織的に推進すべきであろう。
	1学年	グリーン作戦を通して、美化意識と社会貢献の意識を高める。	3学期に実施予定。	32%	55%	14%	0%	3月14日に実施予定。	
	2学年	地域に貢献するため、グリーン作戦を実施。	3学期に実施。	33%	53%	13%	0%	地域貢献活動のひとつとしてとらえる。	
	3学年	グリーン作戦への取り組みに個人の役割分担を明確にし、責任感を育てるよう指導する。	1学期に実施し意欲的に取り組めた。	51%	45%	4%	0%	生徒の自己肯定感が育つ事前指導の実施。	
[4] 健康・体力の増進と安全教育の推進									
15 健康に対する自己管理の態度・能力を育成する。	保健部	自らの健康課題に気づき、心身の健康の保持増進が図れる実践力を育てる。	文化祭(6月)、体育祭(9月)でも保健委員会として活動して自らの健康課題を考えさせた。年末の学校保健委員会の研究発表に取り組み、よくまとめた。	43%	54%	2%	0%	来年も文化祭(6月)、体育祭(9月)、年末の学校保健委員会の活動を充実させていきたい。	日々の生活の基盤となる健康維持について啓発し、生徒の意識をより高めて欲しい。
	1学年	関係各部と連携して、予防に焦点を当てた健康・心の教育を展開する。	1月現在、進路変更者は9名。	27%	69%	4%	0%	進路変更者の内、心身の健康に起因する不登校生徒が3名いた。迅速な対応と保護者の協力体制が妥当であったかを今後検討したい。	
	2学年	基本的な生活習慣の確立と生徒への面談やカウンセリングの実施。	生徒や保護者への面談が出来た。	31%	58%	9%	2%	生徒や保護者と話す機会を増やし、信頼関係を構築する。	
	3学年	時間管理能力、自己管理能力を育てる。プラス思考を習慣化する取り組みや発言の指導。	各自が使用している手帳による生活リズムのデータ化。生活行動の分析を1週間単位でチェックを行った。	38%	56%	7%	0%	各自が使用している手帳による生活リズムのデータ化。朝食を習慣化。生活行動の分析。	

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言
				A 満足	B やや 満	C やや 不	D 不 満足		
16 自他の安全に対する意識と実践力を育成する。	保健部	学年・関係各部と連携して生徒の情報を入手し、カウンセラーに相談しながら特別支援教育委員会(いじめ対応チーム)機能させ、生徒を育成する。	各学年の気になる生徒に対して気づきシートを実施し、その結果を特別支援教育委員会・職員会議でフィードバックし、生徒理解を共有した。	44%	46%	10%	0%	引き続き、来年も各学年の気になる生徒に対して気づきシートを実施し、生徒理解を共有していきたい。	生徒の内面からの理解に努め、喫緊の課題としてのいじめの早期発見、早期解決のために、備える必要がある。生徒の自己有用感の醸成に、より努めて欲しい。
	1学年	関係各部と連携して、予防に焦点を当てた命・心の教育を展開する。	1月現在、いじめの認知件数は3件。解決済みだが、現在も継続して指導している。	24%	59%	17%	0%	いじめはいつでも起こりうるという感性を持ち続け、次年度も認知件数0を目指したい。	
	2学年	学年集会やHRで思いやりの心を育てる。	いじめアンケートを実施し、生徒理解ができた。	26%	57%	17%	0%	常に相手を思いやる気持ちをもちたい。	
17 基礎体力の向上を図る。	保健部	教科や行事と連携を図り、活力ある生活を支え、たくましく生きるための基礎体力を養う。	先生方が教育活動全体を通じて基礎体力育成に励めるように援助した。	32%	55%	13%	0%	来年も先生方が教育活動全体を通じて基礎体力育成に励めるように援助してゆきたい。	
(5) 広報活動の充実									
18 中学校訪問などを活発に行い、外部への積極的な情報発信に努める。	校務運営委員会	学校新聞、ホームページ等、配付資料の充実を図り、より広域への情報発信を行う。	中学校訪問を6回実施、20の塾を訪問し、本校の教育内容の宣伝に努めた。ホームページは随時更新、配付資料の改訂、旧神戸第1・芦屋学区に加え、第2・3学区への広報活動も展開した。	46%	40%	12%	2%	学区改編後の受検生の動向を踏まえ、的確に本校の教育内容の宣伝を行う。広報活動についてはより効果的な方法を考案する。	
19 中学校説明会の工夫・改善やホームページの充実と迅速な更新に努める。	総務部	・オープン・ハイスクール等の充実・改善(8月・11月)本校の良さが伝わるように、内容に工夫を重ねる。 ・ホームページは分かりやすい画面を工夫し、より伝わりやすくする。	・特色選抜をより理解してもらえるように生徒によるプレゼンテーションを行った。当日のアンケート結果で好評を得た。 ・ブログは時間をおかず更新することができたが、ホームページはもっと充実させる必要があった。	38%	44%	16%	2%	・特色選抜をより理解してもらえるように生徒によるプレゼンテーションを目指す。当日のアンケート結果で好評が得られるようにする。 ・ブログのリアルタイムの更新及びホームページのさらなる充実が課題である。	さらに、有効な情報発信を期待する。オープン・ハイスクールや学校説明会で、東灘高生が自分の言葉で直接説明をする機会をもつことは、効果的であろう。より有意義なふれあいの場が設定されることを期待する。「開かれた学校」を目指して、さらに工夫して欲しい。
	保健部	生徒の健康課題等、実態に合わせた保健だよりを発行する。	保健室に来室する生徒より実態を把握し、それに対応した保健だよりを発行するように努めた。	46%	54%	0%	0%	来年も生徒の実態を把握し、それに対応した保健だよりを発行するように努めてゆきたい。	
20 保護者・地域との連携を図ると共に、開かれた学校作りを推進する。	総務部	地域と連携し合同防災避難訓練を実施する。	講演会を含め、より実効性のある形で実施した。	34%	56%	4%	6%	訓練の結果を踏まえ、防災マニュアルの見直しを進める。	
	保健部	月1回、保健部会を開催し、生徒の情報交換および学年との連携を図る。	連携に勤めた結果、昨年より2クラス増にもかかわらず、保健室利用者は減少した。	50%	50%	0%	0%	来年度も生徒が学習に進路に頑張れるように側面から援助してゆきたい。	
	地域貢献実行委員会	地域と連携し合同防災避難訓練を実施する。	深江浜地域合同防災避難訓練としてプログラムの改善を積極的に行い、地域や多くの団体にご協力いただき、ある程度の成果をあげることができた。	47%	43%	6%	4%	深江浜地域合同防災避難訓練については、昨今の情勢を踏まえ、さらなるプログラムの改善を行い、少しでも大きな効果があるものを目指す。	
	1学年	学年通信を月1回以上の頻度で発行する。無断遅刻・欠席者は直ちに家庭に連絡、1ヶ月に欠席3日以内、遅刻3回以内を基準に、上回る生徒への生徒面談及び保護者への連絡を行う。さらに回を重ねる者は保護者来校のもと指導。	1月までに欠席・遅刻を理由に保護者来校のもと指導した生徒16名。目標を達成できなかった。	15%	48%	35%	2%	保護者来校のもとで指導した生徒は、ほとんどが常習化している生徒であった。罰則を与えるだけでなく、日々の学校生活の中で前向きな気持ちを構築させる仕組みを考えていきたい。	
2学年	学年通信を15回程度発行する。遅刻、欠席の場合は必ず家庭連絡をする。頻度の高い生徒には保護者来校の上、指導。	1月で通算学年通信発行26回、行事予定など学校や学年の情報を発信できた。	33%	52%	15%	0%	学年通信で情報発信することは、続けるべき。		

具体的な教育活動	担当	具体的な取り組み	最終報告	学校自己評価の結果				次年度への展望	学校評議員 学校関係評価 委員の提言	
				A 満足	B やや 満	C やや 不	D 不 満足			
20	保護者・地域との連携を図ると共に、開かれた学校作りを推進する。	3学年	学年通信を月1回以上の発行。日々の些細な電話連絡の充実。保護者来校及び家庭訪問での指導。	進路関係の学年指導で保護者面談を5件実施。個別の保護者面談も必要に応じて実施。	38%	54%	8%	0%	保護者への連絡のうえ、家庭との協力がさらに必要な場合は三者、四者面談を実施。	
〔6〕その他										
21	学校評価を用いた評価システムを確立し、活力ある学校作りを推進する。	1学年	学年経営方針を学校評価に明確に位置づけ、評価指標を設定し、クリアーできるよう努める。	現在、評価指標達成に向けて取り組んでいる。	31%	54%	15%	0%	指標目標を達成するには、それぞれの項目において具体的な実践方法を明確にすることが必要である。本年の反省を踏まえ、それぞれの指標到達方法を具体的にしていきたい。	学校評価の結果を真摯に受けとめ、地道に取り組んで欲しい。 生徒にとっていろいろな意味で楽しい学校を目指すことが様々なよい実績につながる。
		2学年	風通しのよい集団づくり	学年で情報を共有できた。	26%	57%	17%	0%	情報の共有はもっとすすめるべき。	
22	将来構想委員会等が中心となって、ボトムアップ方式で全職員の協同体制を構築する。	将来構想委員会	将来構想委員会を発足させ、現状の分析をもとに、短、中期的に、学校の活性化を図る。	本校の教職員向けのアンケート「生徒が社会で活躍できる東灘高校をつくるために」を実施し、進路、特色選抜、部活動の3つの観点から、学校活性化に向けて新しい目標を提案できるよう現在とりまとめている。	17%	50%	23%	10%	今年度まとめた新しい目標・提言を中心に、全職員の協同のもと、できるものから実行に移していく。	
23	適切なスクラップアンドビルドに努め、学校改善に努める。	1学年	毎週の学年会で現況報告と分析・情報交換を行い、学年経営の改善に努める。	8:30登校は遅刻者減少につながり効果的であった。学年会議では毎回現状報告と情報交換を行い、模試の結果分析と今後の戦略について協議した。	55%	43%	2%	0%	より効果的なものになるように更なる改善が必要である。	
		2学年	各種会議の議題や資料の事前準備の徹底。会議の精選と時間短縮。	学年団で情報の共有して改善できた。	40%	49%	11%	0%	さらに会議の精選をすべき。	
		3学年	各種会議の議題や資料の事前配付及び事前準備の徹底。会議の時間短縮や精選。毎週の学年会議の充実。	35回の定例学年会議で進路指導部に出席いただき情報共有や指導の徹底を行った。	42%	52%	6%	0%	学年会議での生徒情報や共有事項の徹底。発展的改善への行動力。前年度の事例をもとに危険予知能力のレベルアップ。	